

『児童画のロゴス—身体性と視覚—』 鬼丸吉弘(勁草書房)

2011年度～

## 科目概要

ここでは主に「造形の原理」について、イメージとしての認識と実態からの観察に関連性が持てるように学習する。たとえば、幼児期からの子どもの造形的な発達段階には、世界共通の普遍的な特徴があると定位されていたり、人が自然の事物や人工物の別なく美しさを感じるときには、美的秩序の構成要素を見いだしている、など、人間はなぜに造形という手段に人類普遍の価値観を以って表現活動をするのかを探る。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

1. 美術が「視覚による芸術」といわれる要因を、制作者と鑑賞者双方の「身体性と視覚」の相互作用による所産であることが理解できること。
2. 本来「自由で自発的な創造性」による造形活動の普遍的な原理を捉えることができること。

### ■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの造形活動の発達と原理
2. 「表出期」「構成期」「再現期」
3. 近視的「触覚型」と遠視的「視覚型」
4. 触覚的「体性感覚」と視覚的「再現理論」
5. 発達段階の意味と芸術性
6. 直感像と透視図法

## 参考文献

テキスト内「文献目録」参照のこと

## 評価基準

### ■ レポート評価

- ・レポートの作成にあたっては、課題に即した範囲のテキスト内容を的確に読解し、その範囲に該当する「学習要点事項」に関する解釈が、所定の文字数でまとめられていること。
- ・考察や私見が求められている課題の場合でも、記述内容が主観的に過ぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■ 科目終了試験評価

- ・科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定されるが、個々の設問については、レポート課題の設定範囲に近い印象の場合もある。過去問や出題傾向を並べてみれば歴然としているが、「科目の学習要点事項」に示されている項目のそれぞれが、個々の設問と捉えて整理しておくこと。
- ・評価のポイントは、出題の主旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。

『造形基礎』 長沢秀之監修(武蔵野美術大学出版局)

2015年度～

## 科目概要

ここでは、形式的造形要素としての「色・形・質(塊量)感」相互の関連性による、感覚および感情への作用について論理的な解釈を促しながら、観察や小実験的な指摘により体得的理解に結び付け、かつ、これらの経験的な方法論をもって児童・生徒への指導活動に活用可能性があることを学びとる。また、客体(作品)としての造形要素への関心・理解ばかりでなく、作品が存在する空間感覚や人為的変工(造形活動)の主体である制作者や鑑賞者と作品に対峙する「身体感覚」としての空間感覚の連環・関与を実感させたい。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

1. 形式的造形要素相互の関連性による感覚および感情への作用について論理的な解釈が得られる。
2. 上記の論理的解釈を体得的理解に結び付け、経験的方法論による指導活動に生かせるようになる。
3. 制作者や鑑賞者として、作品に対峙する際の「身体感覚」としての空間感覚が把握できるようになる。

### ■ 科目の学習要点事項

1. 手(動作)と身体/ドローイング
  - ・描くことの身体的快感と表現としてのリアリティ
  - ・ドローイングの発生と絵画
  - ・身体と心と空間感覚
2. 観察と描写
  - ・見える(受動的)ということと眼差し(能動的)——外観と内観
  - ・「見方」と「描き方」の関係
  - ・自身の内面への眼差しと描写
3. 感情と色彩
  - ・自然界の色彩と色彩構成(配色)
  - ・色の性質と知覚的作用——色彩の感情的はたらき
4. 立体(造形)から空間へ
  - ・立体の認識と表現
  - ・平面的造形による空間と立体的造形による空間——現実空間対仮想空間

## 参考文献

テキスト内に掲載の「参考文献」を適宜参照のこと

## 評価基準

### ■レポート評価

- レポートの作成にあたっては、課題に即した範囲のテキスト内容を的確に読解し、その範囲に該当する「学習要点事項」に関する解釈が所定の文字数でまとめられていること。
- 考察や私見が求められている課題の場合でも、記述内容が主観的に過ぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■科目終了試験評価

- 科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定されるが、個々の設問については、レポート課題の設定範囲に近い印象の場合もある。過去問を並べてみれば歴然としているが「科目の学習要点事項」に示されている項目のそれぞれが、個々の設問と捉えて整理しておくといよい。
- 評価のポイントは、出題の主旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて、いかに論述できているかの程度によってなされる。

『すぐわかる西洋の美術 絵画・彫刻&amp;建築と工芸』 宝木範義編(東京美術)

2011年度～

## 科目概要

ひとは神や人間の姿をどのように形作ったり描いたりし始めたのでしょうか。それを当時の人が美しいと感じられるためにどのような工夫をし、それは時代の流れとどのように関わっていたのでしょうか。ここでは、近年の日本でもデッサン用の石膏像や、カレンダーなどの複製絵画、頻繁に開かれる名作の展覧会などを通じて身近な存在となった西洋美術を例に用います。まず、教科書で見るような特に著名なものを鑑賞し、それらが美術の流れの中でどのように形成されてきたかを知ることを通じて、美術作品を前にして生徒達に自分の言葉で説明できるような知識と目を育ててほしいと思います。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

- ・人類の美術的表現の創始期から現代までの発達の過程を、主として西洋美術を例に鑑賞して学び、その大きな流れを理解したか。
- ・古典的な美術作品を自分の言葉で生徒に説明できるようになるための基礎的知識を得たか。

### ■ 科目の学習要点事項

- 1単位目: 絵画について、その発達の例として西洋絵画の展開を取り上げ、近代絵画の出発点にあたるルネサンス期と、日本でも多く鑑賞の機会のある印象派の作品を中心に鑑賞し、その変遷と発展を整理してみる。
- 2単位目: 彫刻について、その発達の例として西洋の彫刻を、基本となるギリシャ彫刻にまず重点を置いて鑑賞し、ルネサンス期におけるその復活と、そこからの展開を、併せて整理してみる。

## 参考文献

- 『鑑賞のための西洋美術史入門』視覚デザイン研究所(時代背景やエピソードも含めてたのしく知りたい人に)  
『西洋美術史ハンドブック』新書館(多くの作品とその紹介を含むもの)  
『カラー版西洋美術史』(より詳しく、図版が多い本)

## 評価基準

### ■レポート評価

レポート1 単位目:1.美術作品が時代によって表現に違いのあることを知り、西洋の各時代の絵画の特徴と時代背景などを大まかにつかむことができるか。

2. 20世紀の絵画の多様性を知り、主な西洋美術の流派の特徴を知ることができるか。

レポート2 単位目:1. 彫刻や美の基本とされることの多いギリシャ・ローマ彫刻の特徴とその発達過程を把握することができるか。

2. 西洋彫刻の各時代の発展過程を、各時代の彫刻の特徴と、時代背景などを通して大まかに把握することができるか。

### ■科目終了試験評価

(2題あります)

1. レポート1で学んだ西洋の各時代の絵画と、レポート2で学んだ西洋の各時代の彫刻について一通りの知識を持ち、簡単な説明ができるか。

2. レポート1・2に登場するような西洋美術史上の特に有名な画家・彫刻家について、自分の言葉で中学生・高校生に判るように、その生涯や、作品の特徴、時代背景や影響などについて説明ができるか。

## 使用テキスト

## 配本年度

『すぐわかる日本の美術 改訂版』 田中日佐夫監修(東京美術)

2011年度～

## 科目概要

アジアの伝統美術を日本の仏教彫刻・日本の絵画を中心に鑑賞し、表現方法および独自の美意識や創造の精神などを知り、あわせて歴史的・文化的な背景についても理解する。中学校・高等学校の美術の指導者を養成することを前提に、これらの美術作品を生徒たちに自分の言葉で語り、解説できるようになることを目指す。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

アジアの伝統美術を、日本の各時代の仏教彫刻の変化への影響、日本の各時代の多分野の絵画から学ぶ。これら日本の美術の流れを大まかに時代ごとの特徴とともに把握し、不明なことを自力で調べる手段を身につけ、およそそのことを自分の言葉で生徒に語る事が出来るようになる。

## ■ 科目の学習要点事項

1単位目：日本の仏教彫刻が百済・唐などアジア諸国の各時代の影響を受けつつ変化してゆく様相と、それぞれの時代ごとの作品の特徴と見どころを、飛鳥、白鳳・天平(奈良時代)、平安前期、平安中期、鎌倉時代を中心に学び、鑑賞する。

2単位目：日本の絵画が時代とともに変化し、新たなジャンルの絵画が生み出されて成熟してゆく様相を、飛鳥・奈良時代の絵画、密教絵画、浄土教絵画、絵巻物、肖像画、水墨画、障壁画、琳派絵画、浮世絵、を中心に学び、鑑賞する。

## 参考文献

『すぐわかる東洋の美術』(東京美術) [東洋美術全体を知るための概説書]

『仏像のひみつ』山本勉(朝日出版社) [仏像のことを詳しく知るため、生徒に教えるため]

『日本美術史ハンドブック』(新書館) [多くの作品とその紹介を含むものとして]

『カラー版日本美術史』(美術出版社) [より詳しく、手軽に入手できる本として]

## 評価基準

## ■ レポート評価

レポート1単位目：日本の仏教彫刻が時代によって表現に違いのあることを知り、それぞれの特徴と時代背景などを大まかにつかむことができるか。

レポート2単位目：日本の絵画にも時代・分野によって多様な作品があることを知り、それぞれの特徴と時代背景などを大まかに把握することができるか。

## ■ 科目終了試験評価

(2題あります)

1) 有名な(テキストにあるような)日本の仏像・絵画作品について、写真図版を参照しながら、自分の言葉で中学生・高校生に判るように、特徴や時代背景・見どころなどについて説明ができるか。

2) レポート1で学んだような日本の各時代の仏教彫刻と、レポート2で学んだような絵画の各ジャンルとその用語について、一通りの知識を持って簡単な説明ができるか。

『美術科教育の基礎知識 四訂版』 福田隆眞・福本謹一・茂木一司編集(建帛社)

2011 年度～

## 科目概要

美術科教育の在り方について、「歴史」と「発達」の両面から捉える。自由画教育運動や戦後の民間美術教育運動など、歴史の結節点になるような事柄を学ぶとともに、外国の美術教育理論の日本への影響も理解する。また、子どもの造形表現の発達について、主体的に作品例を調べることを通して考察する。それらを踏まえた上で、美術を通じた人間教育について考える。レポート作成にあたっては、作品例の調査・研究に10時間以上を充てるのが望ましい。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

1. 「美術の教育」と「美術を通しての教育」の違いを理解し、美術科教育の在り方について考える。
2. 明治期の図画教育から今日の美術教育に至る日本の美術教育理論について理解する。
3. チゼックの美術教育実践やリードの美術教育論を学び、日本の美術教育への影響について考える。
4. 子どもの描画の発達を学んだ上で、美術指導の実際について考える。

### ■ 科目の学習要点事項

1. 美術教育の目的と性格
2. 美術の教育と美術を通しての教育
3. 日本の美術教育理論と歴史
  - ・明治期の図画教育(臨画、鉛筆画・毛筆画論争、新定画帖)
  - ・自由画教育運動
  - ・戦時下の図画・工作教育
  - ・戦後の民間美術教育運動
4. 外国の美術教育理論と歴史
  - ・チゼック
  - ・パウハウス(ヨハネス・イッテンの基礎教育などを中心に)
  - ・ハーバート・リード
5. 造形表現の発達と類型
  - ・描画の発達段階
  - ・ローウェンフェルド(視覚型・触覚型など)
  - ・ケログ

## 参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編』日本文教出版、2018年  
 金子一夫『美術科教育の方法論と歴史(新訂増補)』中央公論美術出版、2003年  
 ふじえみつる『子どもの絵の謎を解く』明治図書、2013年  
 その他、テキストP225～229に列挙

## 評価基準

### ■レポート評価

- ・ レポートの作成にあたっては、レポート課題に示した範囲のテキスト内容を読解し、所定の文字数の中で、重要な事柄が漏れないように的確に要約すること。
- ・ 記述内容が主観的すぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■科目終了試験評価

- ・ 科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定される。よって、「科目の学習要点事項」に示した内容について、事実や定説を整理し、各著者の考えを参考に自分の意見も持つことが望ましい。また、テキストは、設問に対する各著者の解答という形で構成されているので、論の展開の形式は科目終了試験の解答の参考になるはずである。
- ・ 評価は、出題の趣旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。



『美術科教育の基礎知識 四訂版』福田隆眞・福本謹一・茂木一司 編集(建帛社)

2012 年度～

## 科目概要

中学校、および高等学校の学習指導要領に示された美術科の目標と内容について理解する。特に、戦後の学習指導要領の変遷をたどった上で、平成20年度版および平成29年度版学習指導要領の改定のねらいと特徴を理解する。ここでは、「表現」領域の「絵画」「彫刻」の内容を捉え、授業実践の事例を主体的に調査・研究することを通して、指導上のポイントを押さえる。また学習指導案の形式を学び、具体的な題材について目的や内容、方法などを構想する。レポート作成にあたっては、授業実践の調査・研究に10時間以上を充てるのが望ましい。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

1. 戦後の学習指導要領の変遷をたどった上で、平成29年度版学習指導要領の改訂のねらいと特徴を理解する。特に、三つの柱(「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」)と美術科の目標との関係を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を具体化できるようになる。
2. 中学校、および高等学校の学習指導要領に示された美術科の目標と内容について理解する。ここでは特に、「表現」領域の「絵画」および「彫刻」の特徴を知り、指導上のポイントを押さえながら、より効果的な指導法について考察できるようになる。
3. 学習指導案の形式や書き方を学ぶ。その上で、具体的な題材について教材研究をし、生徒の活動をイメージし、目的や内容、方法などを構想して、学習指導案としてまとめられるようになる。

### ■ 科目の学習要点事項

- 1、学習指導要領の変遷
- 2、平成29年度版学習指導要領の改訂のねらいと特徴
- 3、学習指導要領における美術科の目標
- 4、美術科の内容構成(「表現」と「鑑賞」)
- 5、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「絵画」「彫刻」の指導法
- 6、学習指導案の描き方
- 7、教材研究と授業の実際

## 参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編』日本文教出版、2018年

谷川握監修『絵画の教科書』日本文教出版、2001年

京都市立芸術大学美術教育研究会編『つくる・見る・学ぶ 美術のきほんー美術資料』日本文教出版、2008年

その他、テキストP225～229に列挙

## 評価基準

### ■レポート評価

- ・レポートの作成にあたっては、レポート課題に示した範囲のテキスト内容を読解し、所定の文字数の中で、重要な事柄が漏れないように的確に要約すること。
- ・記述内容が主観的すぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■科目終了試験評価

- ・科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定される。よって、「科目の学習要点事項」に示した内容について、事実や定説を整理し、各著者の考えを参考に自分の意見も持つことが望ましい。また、テキストは、設問に対する各著者の解答という形で構成されているので、論の展開の形式は科目終了試験の解答の参考になるはずである。
- ・評価は、出題の趣旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。

## 使用テキスト

配本年度

『美術科教育の基礎知識 四訂版』福田隆眞・福本謹一・茂木一司 編集(建帛社)

2012 年度～

## 科目概要

中学校、および高等学校の学習指導要領に示された美術科の目標と内容について理解する。ここでは特に、「表現」領域の中の「デザイン」、「工芸」、「映像メディア」について、授業実践の事例を主体的に調査・研究することを通して、指導上のポイントを押さえる。また年間指導計画を踏まえた上で、個々の題材について、目的や内容、方法などを構想する。レポート作成にあたっては、授業実践の調査・研究に 10 時間以上を充てるのが望ましい。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

- 1、中学校、および高等学校の学習指導要領に示された、美術科(芸術科)の目標を理解した上で、「表現」領域の「デザイン」「工芸」「映像メディア」の学習で、生徒が獲得すべき能力について捉えられるようになる。
- 2、「デザイン」「工芸」「映像メディア」の内容と学習のポイントを理解する。特に、デザイン、工芸、映像メディアの歴史や意味、平面や立体の構成、色彩の原理、様々な材料、陶芸の技法、写真・ビデオ・コンピュータなどの表現形式などについての基礎的な知識を身に付け、授業の中で指導できる能力を獲得する。
- 3、年間指導計画について理解した上で、具体的な題材について教材研究をし、生徒の活動をイメージし、目的や内容、方法などを構想して、学習指導案としてまとめられるようになる。

## ■ 科目の学習要点事項

- 1、年間指導計画の理解
- 2、「デザイン」の意味と表現形式
- 3、色彩の原理、色彩の心理、配色の指導法
- 4、「中学校のデザイン」についての教材研究
- 5、「工芸」の意味と表現形式
- 6、「陶芸」の学習内容と指導法
- 7、様々な材料(紙や木など)
- 8、「中学校の工芸」についての教材研究
- 9、「映像メディア」の意味と指導方法
- 10、写真・ビデオ・コンピュータなどの表現形式
- 11、「映像メディア」についての教材研究

## 参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 美術編』日本文教出版、2018 年  
森竹巳編『アートとデザインの構成学—現代造形の科学—』朝倉書店、2011 年  
原研哉『デザインのデザイン』岩波書店、2003 年  
その他、テキスト P225～229 に列挙

## 評価基準

### ■レポート評価

- レポートの作成にあたっては、レポート課題に示した範囲のテキスト内容を読解し、所定の文字数の中で、重要な事柄が漏れないように的確に要約すること。
- 記述内容が主観的すぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■科目終了試験評価

- 科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定される。よって、「科目の学習要点事項」に示した内容について、事実や定説を整理し、各著者の考えを参考に自分の意見も持つことが望ましい。また、テキストは、設問に対する各著者の解答という形で構成されているので、論の展開の形式は科目修了試験の解答の参考になるはずである。
- 評価は、出題の趣旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。

## 使用テキスト

配本年度

『美術科教育の基礎知識 四訂版』福田隆眞・福本謹一・茂木一司編集(建帛社)

2012 年度～

## 科目概要

中学校、および高等学校の学習指導要領に示された美術科の目標と内容について理解する。ここでは特に、鑑賞学習の目的や内容、方法について、授業実践の事例を主体的に調査・研究することを通して、考察する。また美術科教育の評価の考え方や評価方法を学び、美術の学習を通したよりよい人間教育につながる指導について学ぶ。レポート作成にあたっては、授業実践の調査・研究に 10 時間以上を充てるのが望ましい。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

- 1、中学校、および高等学校の学習指導要領に示された、美術科(芸術科)の目標を理解した上で、「鑑賞」の学習の目的と内容を理解し、指導法を考察・考案出来るようになる。
- 2、「鑑賞」の具体的な題材について教材研究をし、学習指導案の作成等を通して、授業の具体的なイメージを持つことができるようになる。
- 3、美術科教育の評価の考え方と評価方法を学び、「評価と指導の一体化」、および「美術を通した教育」の視点を持つことができるようになる。

## ■ 科目の学習要点事項

- 1、学習指導要領における「鑑賞」の位置づけ
- 2、鑑賞教育の目的と内容
- 3、「鑑賞」の題材(日本美術、外国の美術)
- 4、「表現」と「鑑賞」一体化させた授業
- 5、美術科教育の評価の考え方
- 6、美術科教育における評価の方法
- 7、評価と指導の一体化
- 8、美術科教育の運営

## 参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 美術編』日本文教出版、2018 年

アメリア・アレナス『みる・かんがえる・はなす 鑑賞教育に学ぶ』淡水社、2001 年

デイヴィット・ホックニー&amp;マーティン・ゲイフォード『絵画の歴史 洞窟壁画から iPad まで』青幻舎、2017 年

その他、テキスト P225～229 に列挙

## 評価基準

### ■レポート評価

- レポートの作成にあたっては、レポート課題に示した範囲のテキスト内容を読解し、所定の文字数の中で、重要な事柄が漏れないように的確に要約すること。
- 記述内容が主観的すぎるものや、反対にテキストからの引用そのものは不合格とする。

### ■科目終了試験評価

- 科目終了試験は「科目の学習要点事項」に沿って広範囲に設定される。よって、「科目の学習要点事項」に示した内容について、事実や定説を整理し、各著者の考えを参考に自分の意見も持つことが望ましい。また、テキストは、設問に対する各著者の解答という形で構成されているので、論の展開の形式は科目終了試験の解答の参考になるはずである。
- 評価は、出題の趣旨に即した要点事項について、的確な用語が適正に用いられて論述できているかの程度によってなされる。